修了生・卒業生代表謝辞

本日は私たち、修了生・卒業生のために、このように厳粛で立派な式典を挙行していただき、誠にありがとうございます。またご多忙にも関わらず、ここにご臨席下さいました諸先生方をはじめ、ご来賓の皆様方に心より御礼申し上げます。先ほどは、田中学長の告辞をはじめ、ご来賓の方からのご祝辞を賜り、私たち修了生・卒業生一同、身の引き締まる思いと、感謝の気持ちでいっぱいであります。

２４３名の修了生・卒業生が、仕事や子育てなどそれぞれさまざまなことを抱えながら学習時間を捻出し、ようやく今日の日を迎えることができました。

私のことを少しお話しさせていただきます。

私は今から１３年前に、佛教大学に入学しました。そのころ、私は熊本で二人の子どもを認可外保育所に通わせ働く主婦でした。待機児童の問題や子育てに悩むシングルマザーなど、自分が子育てして初めて気づく社会の矛盾がたくさんあり、福祉のことをきちんと勉強して、「ただのおせっかいなおばさん」ではなく「福祉の専門的な視点を持ったアドバイス」ができるようになりたいと思いました。そのことを当時、一緒に保育運動をしていた熊本の大学の先生に相談すると、「福祉の勉強をするなら、佛教大学がいい」とすすめていただき、早速入学しました。入学してすぐのスクーリングは学べることが本当にうれしく、先生の講義も一言一句聞き逃さないように勉強に励みました。しかし、自宅でのテキスト履修は、なかなか進まず、主体的に学ぶ力がないことを痛感しました。リポートをひとつも出せないままに一年がすぎ、仕事や子育てを言い訳にし、そのうち、年が明ける度に今年は休学しようか、いっそ退学しようかと思うようになりました。来年こそはと思いながらも、何もできないままに１０年近く過ぎてしまい、本当にこのままではいけないと思い、３年前「基礎ゼミナール」の授業を受講しました。そこで先生から「社会福祉を学ぶにはいま自分が立っている位置を見極め、現実を深く、鋭く見とおすことのできる力が大切である」と教えていただきました。私が佛教大学に入学したのは単なる資格取得や目にみえる何かではなく、いろんなことを体系的に学び基礎を築くためだった、といまさらながら感じました。もう一度がんばろうと思い、熊本の学習室に久しぶりに参加すると、やはり私のようにきっかけをつかめないまま入学から月日が経ってしまった学友がいました。彼女と「お互いにがんばってリポート書いて、次の試験で会おう」と励ましあい、それからは苦しいのは私だけではないと、テキスト履修も取り組むようになりました。今まで何年も進まずにいたテキスト履修も先生が示してくださる学習の要点にそって学習していくと、学習が深まり、書き上げたリポートに先生が書いてくださるコメントに励まされ、学ぶことがどんどん楽しくなりました。昨年、秋にはずっと思い描いていた児童養護施設への実習にも行かせていただきました。さまざまな事情を背負った子どもたちでしたが、みなとてもかわいく、毎日を一生懸命生きていて、この子たちのためにも私はもっともっと勉強して、子どもたちが悲しむことのない社会をつくっていかなければと思いました。

本日、修了・卒業する２４３名、それぞれの学びにドラマがあったと思います。それぞれがきっと平坦ではなく、いくつもの困難に遭遇しながらも、先生方、大学の職員の方々、学

友、家族の支えで今日を迎えることができました。佛教大学での数年間の学びはそれぞれの人生の中の揺るぎのない自信になっているとことと思います。そして今日からは新しいスタートであり、佛教大学の卒業生として誇りと自覚をもって、それぞれの場所で本学で学んだ教えを生かし、社会のため、世の中の片隅に置かれている人たちのために力を尽くしていきたいと思います。いつかまた学生として佛教大学の門をたたくことがあるかもしれません。そのときはご指導のほどどうぞよろしくお願いいたします。私たちにとって、何歳になっても、どこに住んでいても、素晴らしい先生方から学べる機会があるということは、とても心強く感じます。周りの人たちにもそのことを伝えていきたいと思います。

感謝の気持ちは語り尽くせませんが、佛教大学の益々のご発展を祈念いたしまして謝辞とさせていただきます。

平成２８年３月２５日

修了生・卒業生代表
社会福祉学部　社会福祉学科
井島　奈津代